

G

滋賀県立
男女共同参画センター
情報誌

2024.3 vol.46



Pick up!

若い世代からのジェンダー
平等に向けた取組

G-NETしがフェスタ2023
講座レポート
図書・資料室より
国際女性デー・国際男性デー
女性活躍に向けて
ご案内

誰もが生きやすい社会へ

未来を変えていこう

CHECK

G-NETしが 情報誌



ジェンダー平等に向けて一歩ずつ
なくそう偏見!生きよう自由に!

ジェンダー平等の実現に向けて



性別に関わらずだれもが、仕事と家庭を両立できるようにすることが大事



偏見やハンデに負けずに野球というスポーツで闘っている姿はカッコよくて素晴らしい

自分がこうだと考えていた価値観と現実が全然違うことに驚きました



野球を楽しめるのは女子野球も同じ。好きな気持ちを大切に

ジェンダーは人によって違うので、自分の中の価値観を人に押しつけて無意識に傷つけてしまわないよう気をつけたい

固定概念にとらわれずに物事を考えることが大事

男性も相談できることをもっと周知していく必要がある。相談先も増やしていく。性別に関わらずに相談できるように



現状や課題について初めて知ることも多く、もっと身近なジェンダー問題について考えたいと思った



好きなことを続けられる環境を！！



様々な考えが出る中で、なぜそうするのか、どうしてそのことが問題なのかを考えられる楽しい話し合いができた

みんなが幸せに生きていける社会を目指して、今後もジェンダー問題に積極的に取り組んでいきたい



「自分らしくとは何なのか」についてすごく考えられた。自分自身の生き方を見つめなおしていきたい

スポーツにも男と女で壁があることがわかった。少しずつ変われるように自分も何かしていきたい

自分1人の力じゃ何も変わらないと思って生きてきたが、話を聞いて変えられることもあるのではないかと思うことができた



自分らしい生き方を選んだからこそ出逢えた幸せがある

ジェンダーバイアスについて学ぶことで社会から少しずつ無意識の偏見を取り除いていくことが必要



性別に関わらずやりたいこと、好きなことを発信できる社会に



ジェンダー平等ミーティング

若い世代からのジェンダー平等推進事業



ジェンダー平等社会の実現に向け、若い世代のみなさんが月に一回、テーマに沿って、意見交流をしています。同世代がどのように考えているかを知り、自分自身の考えを広げるとともに、新しいつながりを作り、誰もが暮らしやすい社会づくりのための方策を出し合っています。





聖泉大学4年生

佐々木藍さん



今年度のジェンダー平等ミーティングでは、様々な方からの話題提供によって改めてジェンダー平等について深く考えることができました。また、大学生のみならず多様な年代の参加者の方々と意見交換ができたことで、自分では気付けないような新たな視点や感覚を得ることもあり、大変有意義な時間でした。

今年度のミーティングの様子はテレビや雑誌などのメディア媒体に取り上げていただく機会もありました。そうしたことをきっかけにより多くの方々がこのミーティングの存在を知り、参加してくださることで、さらに多様な視点からの意見交換ができるようになっていけば何よりだと考えます。

私は大学で「メディアとジェンダー」に関する研究を行っています。研究に際して、このジェンダー平等ミーティングで話題提供を行ってくださった方との繋がりが活きる場面もありました。このミーティングは、そのように新たな繋がりを作れる場でもあると思います。

「ジェンダー」について関心がある方、もっと知りたいとお考えの方、何だかよく分からないという方も、ジェンダー平等ミーティングに参加することでジェンダーについて深く考え、新たな視点を得るきっかけになるかもしれません。ぜひお気軽に参加してみてください。

聖泉大学4年生

橋爪佑果さん



私は、ジェンダー平等ミーティングに参加したことをきっかけに、制服や校則などの学校でのジェンダー平等・不平等に興味を持ちました。

自分が小学校、中学校、高校で生活しているときには、男子と女子で分けられることに違和感があっても、「それが普通」、「当たり前前のこと」という考え方をしていました。

しかし、ジェンダー平等ミーティングに参加して、実際に男女で分けられた不平等な校則や制服によって苦しめられている人がいることを知り、ジェンダー不平等な校則や制服は「当たり前前のこと」ではなく「あつてはならないもの」であると感じ、卒業研究でこの問題について取り組むことにしました。

私が、卒業研究でインタビューをした人の中にも、学校でのジェンダー不平等を感じていた人は少なくありませんでした。また、「着たくない」と感じる制服であっても校則によって着ていかなければならなかった人もいたことが分かりました。

一部の高校で導入されているスラックスやキュロットを履くことができる制度や私服で登校できる校則がもっと多くの学校で導入され、生徒が自分の気持ちに合わせ自由に選択でき、ジェンダー不平等によって苦しめられること無く、快適に学校生活を送ることができるようになることを願っています。



長浜バイオ大学4年生

鄧思朗さん



私はジェンダー平等ミーティングに参加して、ジェンダーについて様々な知識を身に付けることができ、物の見方を広げるようになりました。また、年齢と背景問わずに様々な方と意見交流して、人それぞれの考え方や発想をお互いに共有し、物事に対していろんな角度からより深く考えることができました。

日常によく使われる言葉や、気づかない些細な行為でも大きい影響を与えることを理解し、人と接する際に改めて言葉遣いなどに気を付け、よりスムーズな会話環境を作れるようになりました。

ジェンダー平等ミーティングで最も印象に残るのはデートDV問題です。恋愛や婚姻関係の中で女性が被害者だとよく思われていますが、実際にはジェンダーに関係なくどちらでもDVを受けた事例が多いです。さらに男性のほうが世間に加害者だと思われやすく、DVを受けても気づかれない場合が多いそうです。また、DVということはただの肉体的な暴力だけではなく、むしろ精神的な暴力がよく行われています。海外では「emotional abuse」（感情的な恐喝）という言葉があって、親しい関係の中でよく発生しています。特に親子関係、そして恋愛や婚姻関係にこの行為が大切な人に精神上的な暴力を加える者が存在します。これが社会の中に起きている様々な悲劇の主な原因の一つだと思います。

聖泉大学4年生

堀隼人さん



私はジェンダー平等ミーティングに参加して、これまで自分自身が如何に無知であり、偏った情報を見ており狭い視野であったかに気づかされるきっかけとなりました。さらに、これまでに自分の中にある価値観が如何に両親や祖父母の影響を受けて構成されてきたかを学びました。そのような中で、これまで自身の行動がジェンダーの面から差別に当たる行動をしていたことを知り、自分自身に対して不快な気分になったこともあり。しかし、その一方で両親や祖父母から影響を受けた価値観が否定されているかのように感じたことがあり、自身の中で葛藤が生じたことがありました。このような葛藤も、ジェンダー平等ミーティングを通じて様々な方の意見に触れてきたことから解消されたものもあります。また、自分自身の中で新たな気づきを得ることができました。ジェンダー平等ミーティング以外にも様々な面からジェンダー平等について学ぶようになりました。

大学では「戦争とジェンダー」に関する研究に取り組みました。卒業論文では、特に日本人大学生を対象にインタビューを行いました。インタビューを行った中で、戦争に関わる軍人や徴兵制度といったものに対して男性には当事者意識がありました。一方、中には徴兵制度の復活に反対しない人もいました。一方で女性には当事者意識があまり見られませんでした。卒業論文はまだまだ多くの分析課題が残るものとなりました。そのため、今後もさらに視野を広げて学んでいきたいと考えております。

大学生が、ジェンダーの視点から卒業論文を執筆しました

01

卒業論文(要旨) 「戦争とジェンダー」

聖泉大学4年生 堀隼人さん

本論では、日本人大学生へのインタビュー調査で得られた語りをもとに、ジェンダーの視点から戦争に纏わる諸課題について分析を行った。

調査結果から、日本人大学生のほとんどがこれまでに平和学習に取り組んでおり、修学旅行先として、特に沖縄県、広島県を訪れていることがわかった。その中でも女性の多くに「悲惨」「酷い」「(戦争を)起こしてほしくない」といった感情的な語りが確認できた。一方で、男性には感情的な語りが見られず、教育の一環であると捉えていることがわかった。

次に「軍人」、「日本軍」、「自衛隊」のイメージで全てに共通して見られたのは、「規則正しい」、「上下関係厳しい」であった。その中でも男性は「軍人」と「自衛

02

卒業論文(要旨)

「日本映画における

ジェンダー表象の変遷」

聖泉大学4年生 佐々木藍さん

昨今のジェンダー平等意識の高まりによってメディアが描き出すジェンダー表象がどのように変化しているのかを検討するため、日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞した邦画から年代ごとに「幸福の黄色いハンカチ」(1977年)、「火宅の人」(1986年)、「午後の遺言状」(1995年)、「半落ち」(2004年)、「舟を編む」(2013年)、「ある男」(2022年)の6作品を取り上げ分析、考察した。

作品ごとに登場人物の行動、台詞、男性性・女性性(ジェンダーバイアス)の描かれ方など様々な描写をピックアップし、各作品における登場人物の人物、描かれる夫婦像、服装、性描写、さらにそれらと社会情勢の変化との関連性を分析した。

全体的な人柄の傾向は感情の表出が分かりやすく激しいものから淡々と落ち着いたものへ、夫婦像は妻が夫に追従する関係から対等な関係へと変容し、性的接触描写は減少していた。反対に、男女の服装の傾向などあまり変化のない部分も見られた。

今回取り上げた映画作品が制作された50年間の日本では、男女平等社会に向けた様々な政策が打ち出されている。そうして社会的風潮が変化したことにより、社会が映像作品に求めるものも変化していったと考えられる。

隊」に、「国や国民のために命を懸けている職業」というイメージを持っていた。また「自衛隊」は、男女共通して、戦っているよりも災害救助、被災地支援のイメージが強いことがわかった。一方で、「日本軍」に対しては、協力者の多くが「軍の上層部が無茶、無謀な作戦を多く立案、実行していた」といったよくないイメージを抱いていることが明らかとなった。

続いて、日本人大学生が軍事的男性性の影響を受けていることが明らかとなった。男性の語りからは過去に軍事的男性性とも考えられる指導を部活動で受けたことから、自分らしく生きるという反発をしていたことがわかった。学校行事では「クラスが勝つために、最後までやり切る」といった軍事的男性性のような雰囲気、男女問わず形成されていたこともわかった。

次に日本人大学生が、徴兵制に対して反対していることがわかった。しかし、一部の男性は、自国の置かれている状況や国際情勢を知るきっかけとなることから賛成していると語っていた。

戦争についても反対していることが明らかとなった。戦いではなく会話による解決を望んでいる語りが多く見られた。最後に、日本人大学生はジェンダー平等について、当たり前の状態になっていくことを望んでいることがわかった。

しかし、男性の語りからは、女性の方が優遇されていると感じていることが明らかとなった。

03

卒業論文(要旨)

「校則に関する研究」

聖泉大学4年生 橋爪佑果さん

本論の目的は、高校における校則の現状を明らかにし、たうえて、生徒や教員がより快適な学校生活を送ることができるように、改善策などの具体的な提案を行うことにある。

公立高校と私立高校の卒業生それぞれ10名を対象にインタビュー調査を行った。

調査の結果、本来、生徒の成長や安全のために存在している校則の一部が、ジェンダー不平等なものであり、生徒を苦しめる原因となっていることが明らかになった。分析結果をもとに、生徒や教員が快適な生活を送れるよう、具体的な改善策を提案した。

生徒と教員の快適な生活のためには、現在の教員文化、生徒文化、学校文化を大きく変える必要があると考えている。

そのためには、生徒の校則に対する意見を学校へ正しく伝える必要があるのではないだろうか。そして、生徒一人ひとりが抱えている意見を、生徒会などが代表して取りまとめ、学校へ定期的に報告できる場を設けることが有効であると考えられる。報告の場を設けることで、教員の意見と生徒の意見の相違点が明らかになる。学校全体の問題として校則について話し合うことで、学校独自の風土に寄り添った学校文化としての校則を、生徒と教員が共に作り上げていくことができるだろう。



G-NETしが フェスタ2023



「G-NETしがフェスタ2023」を、
県立男女共同参画センターおよび県婦人会
館で開催しました。

『つなげよう・ひろげよう 笑顔から
〜見つけよう!ドキドキ😊ワクワク〜』
をテーマに、今年度も実行委員の皆さんと
ともに準備を進めてきました。

当日は、工夫をこらした展示や体験ブー
ス、ステージイベントなど数々の催しをと
おして、ご参加くださったたくさんの皆様
と男女共同参画について考えることができ
ました。

また、平和な世界を子どもたちにつない
でいけることを願って、メッセージをお寄
せいただく取組も行いました。

おかげさまで、世代をこえてつながれる、
賑やかなフェスタとなりました。

この日生まれた笑顔、ドキドキ、ワクワク
から、明るい未来の実現に向けてのま
た新たな歩みがスタートすることを期待し
ています。



『みんな幸せ』伊吹高校書道部が男女共同参画を“書”で表現されました

つなげよう・ひろげよう 笑顔から
〜見つけよう!ドキドキ😊ワクワク〜

・デートDVについて講演を聞き、くわしく知ることができました。たった一つの暴力をパートナーにふるっただけで、体だけでなく、心も傷つけてしまうんだなと思いました。今の自分の行動をよく見直し、行動を改めるきっかけになったので、しっかりと改めようと思います。

・自分が暴力じゃないと思っていたものが暴力だと知りびっくりしました。

・最初はデートDVって何のことだろう？とっていました。被害者の人は自分が悪いんだと思いがちで、私はその気持ちがすごくよくわかるので、そういう人がいたら、「あなたは悪くないよ」と言ってあげたいと思いました。

・女性だけでなく、男性も高い割合でデートDVをされていることにおどろいた。DVになり得る行動を知ることから始めたい。する側ではなく、される側になるかもしれないから、その時は家族などに助けを求めて、しっかり相手と話したい。

・DVをしている人にも理由があるのかもしれないが、それでも許せないと思った。DVはいろんな人を傷つけ、悲しいやな気持ちにすると感じた。

・DVは身体的暴力だけだと思っていたけど、他にも性的暴力、精神的暴力などがあることを知った。相手に伝えたいことの言い方を考えたり、相手の気持ちを分かろうとしてあげたり配慮をしようと思った。

・自分一人で止められなくても、他の人を頼ればいい。

・自分はこれは暴力ではないかなというものが暴力になることがあり、おどろいた。デートDVを防ぐためには、周りとの協力したり、相談することが大切だと思った。



・女子も男子も相手に対して、性別関係なくデートDVをしている人、されている人がいることが分かった。デートDVをされている人がいたら、助けてあげられるようにしたい。助けるときも、自分が危ない目にあわないように、気をつけて助けてあげたい。

・バイスタンダーという周りの人がとても大切だということが分かった。事前に準備しておくことが大切だと思った。自分は相手を傷つけているとわかっていても傷つけてしまっていることがあるので、話す内容は一回自分で考えてから発言することが大切だと思った。

・今日学んだことは、恋愛だけでなく、友人関係にも使えるような話だった。「イヤな関係」ではなく、本音が言えて安心できる「すてきな関係」になりたい。また、した人がどういう気持ちでも、された人が「いやだ」と思ったら、デートDVにあたるということが分かった。



デートDV防止啓発セミナー

第2回教職員
対象講座
8/1(火)開催

『子ども達を被害者にも加害者にもしないために
～デートDV防止の授業実践から考える～』
講師：上野 淳子さん(四天王寺大学准教授)



・デートDVの概念や現状から、中学生・高校生にも被害者・加害者が存在すること、DVの予兆でもあり、虐待やいじめとも関連するため早期の予防教育の必要性についてお話しいただき、様々な学校等で実施していただけるプログラムの実践やその効果について教えていただきました。

実践においては、男性加害ー女性被害や異性カップルを前提としないことなど、ジェンダーや多様性に配慮することも大切であることを学びました。

誰もが安心して過ごせる安全・安心な社会になるよう、理解を深めて日々の業務や指導にあたることの重要性と使命感を実感できる講座となりました。

受講者の声

- ・デートDVについて理解しているつもりでお話を聞きましたが、モラハラの概念やバイスタンダー(その場にいあわせた人)について新たに学ぶことができた。
- ・「イヤ」と思った時にNO!と言えるようにコミュニケーションを学習することが必要だと思った。
- ・こういう学習は、若い世代の人たちにちゃんと学んでほしいと思うと同時に、自分たち世代の人たちにも学ぶ機会が必要だと感じました。

県内中学校・
高等学校等での
アウトリーチ
開催

「より良いパートナーシップを築いていくために
～デートDVについて知り、伝えていくことから～」

『デートDVをみんなで防ごう』
講師：上野 淳子さん(四天王寺大学准教授)

・デートDV予防プログラムを県内の中学校・高等学校等で実施校のニーズに合わせて行っていただいています。アクティブラーニングを用いて能動的な学びを促し、プログラム前後にアンケートによる効果検証も実施していただき、実施校にフィードバックいただいています。

デートDVについての知識だけでなく、対人関係スキルやバイスタンダー(その場にいあわせた人)の視点についても学んでいます。



県内中学校での開催の様子

講座		概要
8/4 (金)	第3回 教職員対象 講座	『セクシュアル・マイノリティについて私たちができること ～家族の支援・家族関係から考える～』 講師：松尾 ゆみさん 松尾 タクミさん (NPO法人共生社会をつくる 性的マイノリティ支援全国ネットワーク)
9/7 (木)	第3回 相談員スキル アップ講座	『発達障害と相談員のメンタルヘルス』 講師：辻本 哲士さん (滋賀県立精神保健福祉センター所長)
10/6 (金)	第3回 市町男女共 同参画担当 職員研修	『ジェンダーの視点から考える地域防災』 講師：勝身 真理子さん (ミュージストリーム代表)
10/7 (土)	第2回 G-NETほっと セミナー	『ケアを支える地域づくり ～世代とジェンダーの視点から～』 講師：斎藤 真緒さん (立命館大学産業社会学部教授)
10/19 (木)	第4回 相談員スキル アップ講座	『滋賀県内のDVの状況』 『相談員・DV相談担当者交流会』 講師：滋賀県子ども・青少年局職員
11/9 (木)	第3回 G-NET ほっとセミナー	『選ばれる会社になるために ～人に優しく成長できる会社にするには～』 講師：河村 俊樹さん (社会保険労務士)

『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』

佐藤文香：監修
一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同：著
明石書店 2019年

「友達にこんなことを聞かれた」「バイト先でこんな話が出た」「家でゼミで学んだことを話していたら父親と険悪になった」・・・ジェンダー研究のゼミに所属している学生たちが、それゆえに友人知人から投げられた様々な「問い」に、「いったいどうい
えばよかったんだろう」とまじめに思い悩み、それらをQ&Aとしてまとめました。ここに書かれていることを手がかりにして、ぜひ自分なりの解答を考えて欲しいと思います。



図書・資料室からの
書籍案内

今号の特集である
「若い世代からの
ジェンダー平等」を
テーマに今回は2冊を
紹介します。



『女の子だから、男の子だからをなくす本』

ユン・ウンジュ：著
イ・ヘジョン：絵
すみみ：訳

エトセトラブックス 2021年

性別の枠組みから自由になって、これから必要なジェンダーの知識を得るための、子どもと大人で読む絵本です。

「女の子はリーダーになれない」「女の子は気を遣いましょう」「男の子は運動しなきゃ」「男の子は泣いてはいけない」など、子どもたちを縛る「ことば」から自由になるためにはどうしたらいいのか。カラフルで楽しいイラストと語りかけるようなメッセージで、大人も子どももジェンダー観をアップデートできる一冊です。



自分らしく生きていくための

書籍・雑誌の紹介



G-NETしが図書・資料室では、男女共同参画に関する図書や関連資料、DVDやビデオなど約6万冊の蔵書があり、貸出しをしています。レファレンスサービス、情報提供も充実しています。ぜひ、ご利用ください。



3月1日～3月8日は「女性の健康週間」です

厚生労働省では、毎年3月1日から3月8日までを「女性の健康週間」と定め、女性の健康づくりを国民運動として展開しています。

女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすことができるよう、また、女性の健康に関する知識の向上と、女性を取り巻く健康課題に対する社会的関心の喚起を図るため、創設された週間です。



イラスト タカノキョウコ

みなさんも週間をきっかけに、「健康」について改めて考えてみませんか。

リーフレットのご案内

働きやすい職場づくりのために
～働く女性の健康課題を知っていますか？～

県では、働く女性の健康課題および職場で必要とされるサポートについてまとめたリーフレットを作成しました。ぜひご覧ください！



詳しくはこちら
(県HPIに遷移します)



滋賀県男女共同参画審議会委員を募集しています

男女共同参画の推進に関する事項について、学識経験者等の委員とともに調査審議を行っていただく委員を募集します

- ▶ 募集人数: 2人以内
 - ▶ 任期: 7月1日から2年間
 - ▶ 応募資格: 県内に居住または通勤、通学する方
 - ▶ 応募方法: ホームページ掲載の応募書に必要事項を記入の上、意見書(テーマ: 「男女共同参画づくりに関する課題や抱負」(1,000文字程度))を添えて、郵便、持参のいずれかにてご提出いただくか、しがネット受付サービスよりご応募ください。
 - ▶ 応募期限: 5月10日(金) 必着
- 応募書の様式等詳しくはこちら



インターネット(しがネット受付サービス)による応募はこちら



お仕事に関するサポート！
ワンストップでサポート！

滋賀マザーズジョブステーション・近江八幡(当センター内)

- ★マザーズ就労支援相談コーナー
- ★母子家庭等就業・自立支援センター
- ★ハローワークマザーズコーナー

総合受付: 0748-36-1831

9:00～17:00 休所日 月曜日・祝日の翌日・GW・お盆・年末年始・施設点検日等
(ハローワークマザーズコーナーは土日・祝日も休所)

☆オンライン相談

☆滋賀マザーズジョブステーション・草津駅前(JR草津駅前)

☆長浜出張相談 もごさいます。



詳しくはこちら
(県HPIに遷移します)

女性の参政権を求めたアメリカでのデモが起源となり、国連により1975年に制定された女性の社会参加や地位向上を訴える国際デーです。

館内掲示や当センターホームページ等で啓発を行うとともに、「女性の健康週間」(3月1日～8日)にちなんで、イベントを開催します。

3月8日

国際女性デー

International
Woman's
Day

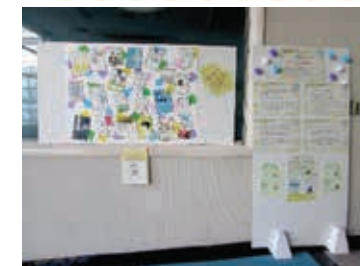
館内掲示

若者との交流

イベント詳細は
ホームページを
ご覧ください

令和6年
3月2日(土)
イベント開催

昨年度の様子



11月19日 国際男性デー

International
Men's
Day

館内に掲示し、「G-NETしがフェスタ」においても啓発を行いました。

男性・男児の健康に目を向け、ジェンダー平等を促すことを目的として、1999年にトリニダード・トバゴで始まり、現在36か国で記念日としています。



もっと知りたい!

G-NETしが



滋賀県立男女共同参画センター“G-NETしが”

男女共同参画相談室

みな はなさく
☎ 0748-37-8739

相談は無料です。秘密は守ります。



受付時間

火、水、金、土、日

9:00~12:00、13:00~17:00

木 9:00~12:00、17:00~20:30

(祝日の翌日・年末年始・施設点検日等を除く)

総合相談

◆電話相談◆

◆面接相談◆

専門相談

◆DVカウンセリング◆

◆法律相談◆

◆男性相談員による男性相談◆

ひとりで悩まないで まずはお電話ください。
一緒に考えていきましょう。

※面接相談、専門相談は予約制です。
まずは、電話相談をお願いします。



滋賀県
こころのサポートしが
LINE相談



<相談時間>

左のQRコードから
LINEの友だち登録を
すると相談できます。

毎日 16:00~22:00



←500人までご利用いただける
大ホール

茶亭→



貸館利用者募集

当センターでは、大ホールや研修室、日本庭園のある茶亭などをお貸ししています。
是非、お問い合わせください!

※当センター主催の講座や相談を受けられる場合、**無料託児**をご利用いただけます。

周辺地図

アクセス JR近江八幡駅下車南口より500m
JR近江八幡駅南口から近江バス
「男女共同参画センター前」下車



〒523-0891

滋賀県近江八幡市鷹飼町80-4

【開所時間】午前9時~午後9時

【休所日】月曜日(祝休日除く)、

祝日の翌日、年末年始、施設点検日等

【TEL】0748-37-3751

【FAX】0748-37-5770

【E-Mail】g-net@pref.shiga.lg.jp